

# 「家族月間」にあたって

国際ロータリー第2660地区 ガバナー  
高島 凱夫



2012年も12月を迎えました。この冊子が皆様のお手元に届くは頃に、2012～2013年度RI第2660地区の地区大会が終了している頃かと思えます。今回の地区大会での心残りは、やはり第2日目に予定いたしていました京都大学iPS細胞研究所所長 山中 伸弥教授の講演が、ノーベル医学・生理学賞授賞ということで不可能となりました。しかし、急遽同研究所副所長 戸口田 淳也教授にご講演を快くお引受け願ひ、無事特別講演を終えることが出来ました。ノーベル賞授賞者と違った切り口のご講演、企画で当事者と致しましては、体裁が整えられたのではないかと、自己満足いたしています。授賞が決定したあと、各クラブの皆様方に戴いた応援に心から感謝を申し上げます。

RIは、12月を「家族月間」と定めています。ロータリーの綱領に「奉仕の機会として知り合いを広めよう」ということが唱われています。このことの原点は「家族への思いやり」ではないかと考えられます。家族→地域社会→国際社会へと思いやり、友情を広めることで「奉仕を通じて平和を」が達成できるものと考えます。そして、ロータリー活動は、ロータリアンのみで行われているのではな

く、家族、米山奨学生、財団学友、ローターアクター、インターアクター、ROTEXなど広義のロータリー家族の参加と協力がとが必要です。

家族と一体となった親睦や奉仕活動はロータリーにとって、必要な側面ではないかと最近感じています。会員同志の友情や思いやりに加えて、家族も加わった親睦が退会防止の一助になるのではないのでしょうか。ロータリアンは原点に立ち戻り、会員間の真の友情を推進し、ロータリアンの家族に対する思いやりの心を深めることが肝要と思います。会員や家族に対する思いやりの心を深めることは、ロータリーライフに大きな活性化となり、会員増強や会員維持に大きな功績を残してくれるはずで

す。今月は、多くのクラブでクリスマス家族会、忘年家族会が開催されると思いますが、ぜひ多くのご家族に出席を賜り、ロータリーの良さ、真髄に触れていただき、ロータリーを知っていただくように努めて下さい。

2012年中は、地区の活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。来る2013年もよろしくご指導、御鞭撻をお願い申し上げますとともに、全クラブのご隆盛と会員各位のご健康をお祈り申し上げます。